

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071100640		
法人名	有限会社 同朋		
事業所名	グループホーム 同朋1・2		
所在地	福岡市南区横手3-37-24 (電話) 092-502-5061		
自己評価作成日	平成 30 年 9 月 10 日	評価結果確定日	平成 30 年 11 月 30 日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

入居者の皆さんと職員が、家族のように温かい雰囲気のホームです。職員間も仲良く、楽しくお仕事をしています。バランスのとれた食事作りを、入居者様に手伝って頂き、楽しく食卓を囲んでいます。また、3階の多目的室において、ボランティアの方や学童の方とのふれあいなど、地域の方々と共に過ごせる機会を、多くしています。終末期を迎えられた時も、老健や特養に移って頂く事ができます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kai gokensaku.jp/">http://www.kai gokensaku.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 30 年 10 月 5 日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は鉄筋コンクリート5階建てで1階・2階が居室、3階が多目的ホール、4階と5階は一般住居となっている。校区の会議参加も定着し自治会ははじめ行政、近隣にある他法人のグループホーム、地域住民との関わりが多くなっている。食事は毎食職員が調理し利用者は準備～食事～後片付けまで関わる為、五感（視覚、聴覚、味覚、嗅覚、触覚）で味わうことができている。事業所内部研修の年間スケジュールがあり実施した内容は運営推進会議で発表している。法人としても地域防災含め地域のために何かできることはないかと常に考え地域の一員としてさらに進化した将来像を描いている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の目につく場所に、表記している。朝礼時に全員で唱和している。	事業所は地域のためにどう働きかけをするか職員一丸となって考え実践に繋げている。さらに地域の問題点や利用者意向を踏まえたサービスが提供できるためにどのように進むべきか将来像も考えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の八百屋さんに入居者様と共に買い物に行き顔見知りになっている。同朋だよりを店舗内に掲示していただいている。	自治会や行政などと連携し地域行事や地域会議に参加している。事業所の敬老会等の行事では年配の方から子供までボランティア交流の実績がある。特別な行事だけではなく日頃からボランティアの受け入れには積極的であり「お楽しみ会」として歌やダンスを楽しんでいる。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会長、公民館長、民生委員の方々に出席いただき、地域の情報を頂くなどして、サービスの向上を図っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が、運営推進会議の議題を話し合っている。運営推進会議では、現状報告と共に頂いた意見を活用できるよう努めている。	運営推進会議では事業所の行事報告や予定、地域で起きた情報、インフルエンザや熱中症の勉強会などが継続して行われている。特に介護職員が自主研修の発表を行うことにより参加者は事業所の取り組む姿勢を理解することができる。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	南第4地域包括支援センターの参加を頂いている。また、入居に際しての協力も頂いている。同朋だよりを発行時に届けている。	日頃から地域包括支援センターと連携する機会はある。地域における認知症高齢者の対応についてなど月1回のペースで校区の会議に参加し情報交換、ネットワークを広げている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で、身体拘束について議題に上げ話し合いを行っている。	身体拘束をしないケアを実践し続けるために身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ3ヶ月に1回会議が行われている。会議の中では指針の確認、現状のケアについて話し合われている。外出傾向のある利用者には見守り、付き添い、職員間の連携でトラブルに発展しないよう支援している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や、自主研修に参加し、つねに虐待に対する話し合いを持っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会に、参加している。伝達研修を行っている。	成年後見制度に関する内容や手続き方法について内部研修会が実施されている。制度に対するパンフレットは常備され家族への説明や相談体制は整っている。実際に利用している方もいるため関係者と連携を図っている。	
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基づき、十分理解して頂ける様、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の言動や、表情等の観察を行い、不満解消に努めている。家族に対しては、苦情意見箱を設置している。	職員は日頃から利用者、家族共に意見や相談を受ける体制がある。利用者からの要望で植物への水やりが日課となった。家族からの要望により、支払方法手続きの変更、施設見学、行事や外食の参加に繋がっている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行って、意見や希望を聞いている。	職員は採用後法人内の異動はほとんどなく同じ環境で働いている。運営に関する事など日頃から管理者へ相談でき、月1回開催される全体会議でも意見、提案できる。理念を基に職員が同じ方向性を確認し合い運営している。	
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各個人に面接を行い、コミュニケーションを図っている。職員の特技を生かして、役割を持って、個別ケアや環境整備等に活かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢に関係なく行っている。	職員の入れ替わりは少なく運営できている。資格取得に関しても上位資格を目指すためのシフト調整などサポート体制はある。内部研修会では年間計画された内容ごとに介護職員も担当しており発表する事で個人の能力が発揮できるよう取り組んでいる。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝のミーティング等で、常に人権に配慮した介護を行うよう指導されている。	外部研修会参加及び事業所内の報告会では障害者、高齢者の人権学習が行われている。排泄介助や認知症行動障害に対する支援の在り方として日頃から人権尊重を意識して利用者に関わるよう努めている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、自主研修に参加できている。カンファレンス時に、職員間で情報交換を行い、ケアの充実に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横手地区の病院や介護事業所による連携ネットワーク作りの会議参加や、第4包括支援センター主催の南4ようと会の会議参加により交流ができています。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者と職員で、今住んでおられる所に出向き、面談を行っている。顔を覚えて頂くと同時に、心配事はないか、お話を伺っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって、面談を行い、良くお話しし、私共の協力が届くように、対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談により、詳しくお話しを伺っている。病院受診などは、具体的にお話ししている。その方に合ったサービスの利用、気付きを心がけている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴を尊重し、グループホームでも役割を持って、生活をして頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に、日常の細かいところも密に現状報告、共有し、本人様の支援にあっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望があれば、いつでも対応できる体制ができています。	利用者の馴染みの人や場所は職員間で共有できており関係が途切れないように実践している。携帯電話で知人に電話する利用者、県外からの訪問がある利用者もいるため継続的に支援できるよう努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	観察を行い、入居者様同士の関係を大切にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去となられた方や、他施設に移られた方など、落ち着いた頃に電話にて、その後の状況をお聞きし、気づいた事などを、お話ししている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの入居者様に合わせた介護に、取り組んでいる。入居者様には、声掛けを多くしたり、表情などにてお気持ちを推測して、そういった情報を、職員間で共有している。	日々の関わりの中で対話を心掛け、特に夜勤時に話をゆっくり聴く時間を設けている。入居者から「苗を植えたい」と希望があれば、職員と一緒に苗を植えたりとその方の意向を常に尊重している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を頂き、連携を図っている。入居後も希望等を重ねてお聞きしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、その方に合った生活が送れるように、見守りや介護に努めている。一日の生活にメリハリをつけて、リズムよく暮らして頂けるよう支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の居心地の良い環境をめざし、カンファレンスを重ね、介護計画を作成している。	日々の関わりの中での本人の意向を確認している。月1回のミーティングでサービス内容について話しあっており、個別に具体的な計画が作成されている。3ヶ月又は必要時に介護計画を見直しており、本人に説明を行い、署名をもらっている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの記録は、行えている。気づきがあれば、連絡ノートやカンファレンス等で、情報の共有と、介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟に対応できる。出来る限り、希望に添う事ができるように対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、自治会、消防、ボランティアと連携できている。横手公民館活動の中で、小学生の皆様との交流を図り、支援を心がけている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの病院を希望される方は、そのまま継続されている。家族が同行出来ない場合は、職員が受診の支援を行い、報告している。	利用開始前のかかりつけ医からの情報提供書により、利用開始後もスムーズに受診支援が行えている。皮膚科や耳鼻科等はこれまでのかかりつけ医の受診を基本とし、検査などの定期受診については、家族が受診に連れていくなど家族との連携も図れている。	
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療や、何かあった時等、すぐに連絡がとれるよう、体制ができている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	お互いに介護引き継ぎ書や、医療情報書などの交換を行っている。入退院時は、職員が病院に同行している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の承諾書とは別に、重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針を、明文化して、入居者や家族に説明し、方針を共有して頂いている。また、その様な状況になりそうな場合は、早めに連絡し、今後の事などの相談を行っている。施設、入院等の連携を図っている。	重篤化対応、終末期ケア対応方針が明文化されており、利用開始時に説明を行っている。日頃より、かかりつけ医から本人・家族へ病状を説明しており、かかりつけ医、本人・家族、職員間で支援方法についても共有出来ている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急シートにて、より迅速に救急対応出来る様に、すべての職員に徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの防災訓練を、年1回、行っている。年間の防災訓練計画を立て、実践している。災害時に備えて、食料や飲料水の確保をしている。	災害マニュアルを作成している。年に5～6回、夜間を想定した避難訓練を行っており、そのうち1回は消防署の協力を得て避難訓練、避難経路、消火器の使い方の確認を実施している。避難訓練を実施する際には、地域住民へ呼びかけている。事業所内に非常用食料や飲料水、備品を準備している。	
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の日常会話での言葉使いは、管理者より常に、指導を受けているが、職員間でも、注意しあっている。接遇研修等、行っている。	人前であからさまに介護しないよう、耳元で声掛けを行ったり、隠語を使用したりと対応に配慮している。内部研修や新人職員研修、ミーティング時に職員の意識向上を図っており。プライバシーに関して話さないことも徹底している。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より会話を多く行い、気兼ねなくお話しして頂ける様な雰囲気を、大切にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様全員で協力して頂く事と、個人で楽しんで頂く事など、一日のスケジュールにメリハリをつけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、理美容の方に来て頂き、ヘアカットや、顔そりをして頂いている。また、お正月や忘年会、敬老の日には、お化粧品やマニキュアなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、食事の準備、かたづけ、食器拭きなどを、職員と一緒にやっている。	毎食手作りで食事を提供しており、利用者と一緒に盛り付けや配膳、茶碗拭きなどの準備、食事、片付けを行っている。また、希望があれば、献立に取り入れたり、小食の方には小盛りで提供するなど見た目にも気を使っている。菜園で育てたじゃがいもやゴーヤ、きゅうり、いんげん等を一緒に収穫して調理している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期の血液検査結果などを参考に、食事量や、水分量を考えて実施している。また、入居前から食事時間が遅かった方は、そのまま継続し、少し遅めの食事を摂られている。いつでも入居者様が、飲食出来る様に、準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが出来ない方は、声掛け介助している。また、出来る方も、声掛け見守りを行っている。歯科検診のため、歯科医院にお連れしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表により、個人の排泄状況を把握し対応している。出来る限り、御自分で出来る事はして頂くと共に、見守りの強化を行っている。	排泄管理表で排泄リズムを確認し、トイレでの排泄を基本とし、利用者一人ひとりに合った支援が提供できている。失禁した場合は周囲に気付かれないよう配慮しながら対応している。また、毎月のミーティングで、使用するオムツやパット類について、コスト面も考えながら話し合い、自立に向けた支援が行われている。	
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を送って頂き、午前、午後に軽い運動をして頂いている。また、排泄管理表により、排便の確認を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	歌いながら、楽しい会話をしながら、など気持ちよく入浴出来る様、支援している。	入浴は一日おきに行っており、毎日入浴できるように浴室は準備している。入浴を嫌がる利用者に対しては、脱衣室で好きな音楽を流したり、時間をおいて再度声掛けしたり、話題をかえたりと対話を大切にしながら入浴の支援をおこなっている。	
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様に、注意しながら、その方のペースに合わせ、夜間良眠になる様、心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いように、職員が服薬管理を行い、症状に変化があれば、医師に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の手伝い、ごますりや根とり、食器拭き、洗濯物たのみ等のお手伝いが、張り合いになっておられる入居者も、おられる。		
51	21	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添う事は、難しいが、前もって、計画を立て、家族に協力を得て、外出することができる。近くの散歩程度であれば、本人様の体調と天気をみながら、実施できている。	気候や利用者の体調をみながら、気分転換をかねて、週に2～3回、利用者と一緒に近くの八百屋まで食材を買いに行っている。また、ドライブは年に4回行っており、家族と一緒に桜や紫陽花、紅葉を楽しんでいる。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様と家族の希望に応じて、トラブルが起きないように支援している。		
53	—	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは、希望されれば直ぐに対応している。 また、お正月やお盆などは、本人様より家族に、電話でお話し頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が、季節の草花を庭にて摘まれ、玄関やトイレ、居室にかざられている。	利用者と一緒に草や花を摘んできて、テーブルや洗面所に飾っている。また、食事中はテレビは付けず、心地よい音楽をかけるなど、気持ちよく食事ができるような雰囲気も大切にしている。カーテンで光の強さにも配慮しており、気分転換に庭を見てもらうなど環境面も工夫している。	

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が出来る様に、気が合う人と近くにいる事が出来る様にしている。 また、行き違いや、勘違いがあるときも、理解者が近くにいるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、馴染みの物を、持ち込んで頂ける様に、家族と相談している。	備え付けのクローゼットだけではなく、馴染みの筆筒やベッド等の家具が持ち込まれている。また、家族写真や作品が飾られており、利用者の個性が感じられる居室となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りに心がけ、一人ひとりの行動や言動に、見守りと注意を払っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
			○	③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		①大いに増えている		
			○	②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		①ほぼ全ての職員が		
			○	②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての利用者が		
			○	②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		①ほぼ全ての家族等が		
			○	②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【I 理念に基づく運営】</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場の目に付く場所に、表記している。朝礼時に全員で唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の八百屋さんに入居者様と共に買い物に行き顔見知りになっている。同朋だよりを店舗内に掲示していただいている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内会長、公民館長、民生委員の方々に出席いただき、地域の情報を頂くなどして、サービスの向上を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	職員が、運営推進会議の議題を話し合っている。運営推進会議では、現状報告と共に頂いた意見を活用できるよう努めている。		
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	南第4地域包括支援センターの参加を頂いている。また、入居に際しての協力も頂いている。同朋だよりを発行時に届けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会等で、身体拘束について議題に上げ話し合いを行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や、自主研修に参加し、つねに虐待に対する話し合いを持っている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての勉強会に、参加している。伝達研修を、行っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書や重要事項説明書に基好き、十分理解して頂ける様、対応している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様の言動や、表情等の観察を行い、不満解消に努めている。家族に対しては、苦情意見箱を、設置している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、全体会議を行って、意見や希望を聞いている。		
12	—	○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員各個人に面接を行い、コミュニケーションを図っている。職員の特技を生かして、役割を持って、個別ケアや環境整備等に活かしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、性別、年齢に関係なく行っている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	朝のミーティング等で、常に人権に配慮した介護を行う様、指導されている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や、自主研修に参加できている。カンファレンス時に、職員間で情報交換を行い、ケアの充実に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横手地区の病院や介護事業所による連携ネットワーク作りの会議参加や、第4包括支援センター主催の南4ようと会の会議参加により、交流ができている。また、法人内では、ある。		
<b>【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】</b>					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、管理者と職員で、今住んでおられる所に出向き、面談を行っている。顔を覚えて頂くと同時に、心配事はないか、お話を伺っている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居にあたって、面談を行い、良くお話しし、私共の協力が届くように、対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援  サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談により、詳しくお話しを伺っている。病院受診などは、具体的にお話ししている。その方に合ったサービスの利用、気付きを心がけている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様の生活歴を尊重し、グループホームでも役割を持って、生活をして頂いている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方に、日常の細かいところも密に現状報告、共有し、本人様の支援にあたっている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の希望があれば、いつでも対応できる体制ができています。		
23	—	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	観察を行い、入居者様同士の関係を大切にしている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去となられた方や、他施設に移られた方など、落ち着いた頃に電話にて、その後の状況をお聞きし、気づいた事などを、お話ししている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】</b>					
25	12	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの入居者様に合わせた介護に、取り組んでいる。入居者様には、声掛けを多くしたり、表情などにてお気持ちを推測して、そういった情報を、職員間で共有している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供を頂き、連携を図っている。入居後も希望等を、重ねてお聞きしている。		
27	—	○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	それぞれ、その方に合った生活が送れるように、見守りや介護に努めている。一日の生活にメリハリをつけて、リズムよく暮らして頂ける様、支援している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様の居心地の良い環境をめざし、カンファレンスを重ね、介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のケアの記録は、行えている。気づきがあれば、連絡ノートやカンファレンス等で、情報の共有と、介護計画の見直しを行っている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望があれば、柔軟に対応できる。出来る限り、希望に添う事ができるよう対応している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働  一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員、自治会、消防、ボランティアと連携できている。横手公民館活動の中で、小学生の皆様との交流を図り、支援を心がけている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からの病院を希望される方は、そのまま継続されている。家族が同行出来ない場合は、職員が受診の支援を行い、報告している。		
33	—	○看護職との協働  介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診療や、何かあった時等、すぐに連絡がとれるよう、体制ができている。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	お互いに介護引き継ぎ書や、医療情報書などの交換を行っている。入退院時は、職員が病院に同行している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時の承諾書とは別に、重度化や終末期のあり方についての事業所の対応方針を、明文化して、入居者や家族に説明し、方針を共有して頂いている。また、そのような状況になりそうな場合は、早めに連絡し、今後の事などの相談を行っている。施設、入院等の連携を、図っている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急シートにて、より迅速に救急対応出来る様に、すべての職員に徹底している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署からの防災訓練を、年1回、行っている。年間の防災訓練計画を立て、実践している。災害時に備えて、食料や飲料水の確保をしている。		
<b>【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の日常会話での言葉使いは、管理者より常に、指導を受けているが、職員間でも、注意しあっている。接遇研修等、行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃より会話を多く行い、気兼ねなくお話しして頂ける様な雰囲気、大切にしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様全員で協力して頂く事と、個人で楽しんで頂く事など、一日のスケジュールにメリハリをつけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月に一度、理美容の方に来て頂き、ヘアカットや、顔そりをして頂いている。また、お正月や忘年会、敬老の日には、お化粧品やマニキュアなどして、おしゃれを楽しんで頂いている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや、食事の準備、かたづけ、食器拭きなどを、職員と一緒にしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期の血液検査結果などを参考に、食事量や、水分量を考えて実施している。また、入居前から食事時間が遅かった方は、そのまま継続し、少し遅めの食事を摂られている。いつでも入居者様が、飲食出来る様に、準備している。		
44	—	○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアが出来ない方は、声掛け介助している。また、出来る方も、声掛け見守りを行っている。歯科検診のため、歯科医院にお連れしている。		
45	19	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表により、個人の排泄状況を把握し対応している。出来る限り、御自分で出来る事はして頂くと共に、見守りの強化を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の食生活を送って頂き、午前、午後に軽い運動をして頂いている。また、排泄管理表により、排便の確認を行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	歌いながら、楽しい会話をしながら、など気持ちよく入浴出来る様、支援している。		
48	—	○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならない様に、注意しながら、その方のペースに合わせ、夜間良眠になる様、心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れが無いように、職員が服薬管理を行い、症状に変化があれば、医師に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理の手伝い、ごますりや根とり、食器拭き、洗濯物たのみ等のお手伝いが、張り合いになっておられる入居者も、おられる。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に添う事は、難しいが、前もって、計画を立て、家族に協力を得て、外出することができる。近くの散歩程度であれば、本人様の体調と天気をみながら、実施できている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人様と家族の希望に応じて、トラブルが起きないようにしえんしている。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは、希望されれば直ぐに対応している。 また、お正月やお盆などは、本人様より家族に、電話でお話し頂いている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が、季節の草花を庭にて摘まれ、玄関やトイレ、居室にかざられている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が出来る様に、気が合う人と近くにいる事が出来る様にしている。 また、行き違いや、勘違いがあるときも、理解者が近くにいるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたもの、馴染みの物を、持ち込んで頂ける様に、家族と相談している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境作りに心がけ、一人ひとりの行動や言動に、見守りと注意を払っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいの	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①毎日ある	<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある	<input type="radio"/>	④ほとんどない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
			<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が	<input type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが	<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
<b>V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)</b>						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
			○	③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている		
			○	② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)		① ほぼ全ての職員が		
			○	② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての利用者が		
			○	② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		① ほぼ全ての家族等が		
			○	② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		